

あれから15年。大人になった少年少女

積み重ねた努力が生む

明日への力



石塚真一 / NUMBER 8 / 小学館

東日本大震災の発生から年月を積み重ねた30代の青年たちが、思い思いに今を生きている。次代を担う子どもたちを温かく育む。澄み渡る大空を飛び回り、見る者に感動をもたらす。一握りのプロの舞台でライバルとの力を削る。動物と触れ合い、命をつなぐ。十人十色の人模様。未曾有の震災が人生の転機となった人もいる。かつて思い描いていた未来とは違う道を歩む人もいる。いつもうまへんは限らない。それでも生きる。それぞれの明日に向かって。胸に宿した思いをさらなる飛躍への力に変えて。



笑顔の循環で
よりよい世界に

宮城県石巻市
ひの子ども食堂 代表
もり みさと
森 美聖さん (31)

高校1年の時、宮城県岩沼市の自宅が津波で全壊しました。以来、人のためにできることは何かと考えています。成人して移り住んだ同県石巻市で、不登校や学力低迷が深刻と知り子ども食堂を思いつきました。朝ごはんでは生活習慣が改善し笑顔が増えると実感しています。子どもたちが、やりたいことに挑戦できるお手伝いがしたいです。



夢、感動、希望、
そして笑顔を届ける

宮城県東松島市
「ブルーインパルス」パイロット
まつらら しょうや
松浦 翔矢さん (30)

大阪で中学3年だった15歳の時、大空を自由に飛ぶブルーインパルスの動画をユーチューブで見ると衝撃を受けました。「自分も操縦士になる」と決意したのが夢の始まりです。いくつもの壁を乗り越えられたのは、人を笑顔にし、感動や希望を届ける使命に意義を感じたからです。夢を諦めず挑戦する気持ちを大事にしたいですね。



繁殖農家として、
命のバトンをつなぐ

宮城県石巻市
畜産業
ささき みさき
佐々木 美咲さん (31)

小さい頃、畜産業を継ぐ気はほぼゼロでした。震災で被災した牛舎の復旧支援を受けて「恩返し」を考え始め、東京での事務所勤めを経て、今ここにいます。あの頃の未来予想とは違うけど、和牛繁殖を通じて命をつなぐことに充実感があります。予想もしない楽しい未来があるから、10代みんなはいろんなことに挑戦してほしいです。



感謝を忘れず
地元でプレーする

仙台市
東北楽天ゴールデンイーグルス投手
こんの りゅうた
今野 龍太さん (30)

震災が起きたのは岩出山中（宮城県大崎市）の卒業式の日。野球ができることは当たり前ではないと強く感じました。高校では野球部員が少なく、やめたい時期もありましたが、「今頑張れば最後には良いことがある」と信じて乗り越えてきました。プロになる夢をつかんだのは、恩師ら周囲の支えがあったから。常に感謝の気持ちを忘れずにプレーしています。



馬文化をもっと
いろんな人に広める

宮城県東松島市
乗馬クラブ従業員
おのてら あおい
小野寺 葵さん (31)

乗馬クラブで、引退した競走馬の余生を支える仕事に携わっています。昨年、女性の出場制限がなくなった「相馬野馬追」に、初めて愛馬と共に騎馬武者として出場しました。貴重な経験でした。今年も参加予定です。馬は家族。馬と触れ合うことが大好きで、仕事にはとてもやりがいを感じています。自分もその中で成長しています。

胸に宿した思いを、さらなる飛躍への力に変えて

突き進む、五つの熱意
インタビューのより詳しい内容と
動画はこちらから



行ける。
オレはどこまでも行ける気がする。

— 宮本 大